

中学校第3学年 B 器械運動 エ 跳び箱運動 飯塚市立筑穂中学校
単元目標

知識及び技能	体力の高め方や運動の観察方法を理解するとともに基本的な技を滑らかに安定して行い、発展技を行うことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	自主的に取り組むとともに、互いに助け・教え合おうとすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとすることができるようにする。

※共：男女共修

	①	② ③ ④	⑤ ⑥ ⑦	⑧	
ねらい	競技の特性や技の名称について理解するとともに自己の課題を見つけることができる。	基本的な技（開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転）を身に付けるために、ポイントカードを活用し個人の技能を高めることができる。	課題解決のために、ICT機器を活用したアドバイス活動を行うことを通して、条件を変えたり、技の完成度を高めたりすることができる。	一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするすることができる。	評価規準
導入	準備運動（ストレッチの紹介含）	グループ別に技に必要な準備運動や補強運動を話し合いながら準備運動を行う。（体づくり運動の学習を活用する）			【知識・技能】 ①基本的な技を身に付け、条件を変えて行ったり、技の完成度を高めたりして行うことができる ②体力の高め方や運動観察の方法を理解している。
展開	競技の特性や技の名称について理解できるように、映像等を使って説明する。	【個人メインの活動】 動きのポイントを提示し、基本的な技（開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転）を行う。 習熟度別学習 共：生徒が自分の技能に合わせて練習ができるように、習熟度別のコースを設定し、自己にあった練習ができるようにする。	基本的な技・発展的な技（頭跳ね起き跳び、前方倒立回転跳び等）の復習をグループで行う。	発表会を行う グループで相互評価を行う。 共：競技会での採点方法を取り入れ、技の難易度だけでなく出来ばえを評価に加えることにより、一人ひとりに応じた挑戦を大切にできるようにする。	【思考・判断・表現】 ①技に必要な準備運動や事故が取り組む補助運動を選ぶことができる。 ②ICT 機器等を活用し、自己や仲間の技の課題を発見・アドバイスができる。
	自己の課題を把握するために、基本的な技の試し跳びを行う。その際、ペアを作りチェックシートを活用して互いの試技を評価させる。	技別学習 共：生徒の目標となる技別にコースを設定しポイントカードを活用して互いの技を観察・評価し改善点をアドバイスできるようにする。	発表会に向けて発表する技を決め、発表順（構成）を話し合う。 共：一人一人の体格、能力などの違いに応じて発表の技を決定できるようにする。そのために、技の難度と出来栄え両方を評価し、苦手な生徒も自分にあった技を選ぶことができるようにする。	発表会を行う グループで相互評価を行う。 共：競技会での採点方法を取り入れ、技の難易度だけでなく出来ばえを評価に加えることにより、一人ひとりに応じた挑戦を大切にできるようにする。	
終末	今後の学習の見通しを持つことができるように、発表会の評価方法について説明し、出来栄えも評価していくことを説明する。	【グループメインの活動】 グループに戻り、個別で学習した技のポイントを共有し、練習する。 共：実施していない技のポイントも理解できるようにする	グループで課題解決に向けて練習を行う。 共：ICT 機器を活用し、動画を撮影し模範演技と比較・考察させアドバイスをを行うことによって、技の習得や完成度を高めることができるようにする。		【主体的に学習に取り組む態度】 ①学習に自主的に参加しようとしている。 ②互いに助け合い、教え合おうとしている。 ③一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。
	整理運動、振り返り（授業後のアンケート等）の記入				

知識・技能				①		②	①	
思・判・表		①	①			②		
主	①				③		②	③

男女混合グループによる評価方法・課題解決の工夫

中学校第3学年 B 器械運動 エ 跳び箱運動

飯塚市立筑穂中学校

1 単元の目標

- 運動の観察方法を理解するとともに基本的な技を滑らかに安定して行い、発展技を行うことができるようにする。【知識及び技能】
- 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向け自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- 自主的に取り組むとともに、互いに助け・教え合おうとすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするようにする。【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) グループINGの工夫

本学習は、グループでの活動（学び合い）が主となる。そのため、グループINGについては第1時に各自ができる技を確認し、各グループ技能差を平準化した男女混合のグループを作った。グループINGの工夫を行うことにより、各グループの学び合いが活性になった。特に、男女混合としたことで、難易度の高い発展技を男子が練習する場面において、女子が男子の動画を撮影したり、ポイントと比較したりする場面が増えた。技能の高い生徒がよい手本となり、生徒一人ひとりの学習に対する意欲付けや、技に直接取り組まなくても、動きのポイントを理解する機会となった。跳び箱運動を苦手とする生徒の振り返りでは、「挑戦こそはできなかったが、技のポイントを学ぶことができた。」という記述もあり、グループINGの工夫は技能差に関係なく、生徒が動きのポイントを理解する上で有効であった。



【学習後の女生徒の感想】
男子の上手い人を見て、「こうやってやると、自分もうまくいくかも。」と思って挑戦しました。男子と女子で協力してアドバイスを合えたことが良かったです。

(2) 評価方法の工夫

単元のまとめとして発表会を行った。発表会の方法として実際の体操競技の採点方法を取り入れ、Dスコア（技の難度）とEスコア（技の出来ばえ）で評価し、グループの平均で順位を競う方法で行った。行う技については自己の能力に応じて基本的な技（開脚跳び・台上前転）、発展的な技（かかえこみ跳び・首はね跳び・頭はね跳び・前方倒立回転跳び）を選択できるようにした。

評価方法にEスコア（出来ばえ）を入れたことは、跳び箱運動が苦手な生徒の練習に対する意欲付けになった。基本的な技を選択しても出来ばえを高めることで、発展的な技と同等の点数を取ることが可能になり、生徒は自己の能力に応じた技を選択し、出来ばえを高めようとタブレットを活用し自分の動きを確認する場面が増えた。

この評価方法に出来ばえが入るとは思いませんでした。技をもっとみかこうと思ひ、何回もとびかこむとべるようになったからいいと思ひます。

(3) 課題解決の工夫

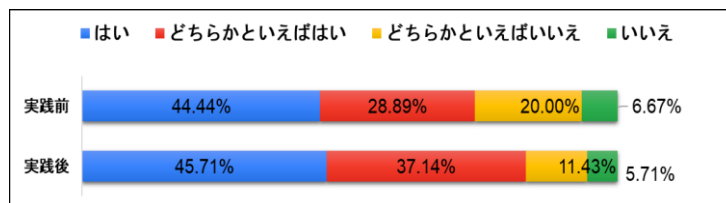
タブレット端末を活用し、自分が跳んでいる様子を同じグループの生徒に撮影してもらい、自己の課題を把握できるようにした。その際、技能差に関係なく生徒同士がポイントを学び合う場を設定した。ICT 機器を活用し、自分の動きを確認・フィードバックする活動は、生徒の学習意欲の向上につながると考えた。グループでの評価という点もあり、技能の高い生徒は自分の練習だけでなく、同じグループの生徒にポイントを教えるなどの主体的な活動が増えた。できなかった技ができるようになった場面ではグループ全員で歓声を上げ、拍手で成功者を讃えるなどグループで活動する喜びを感じている様子であった。



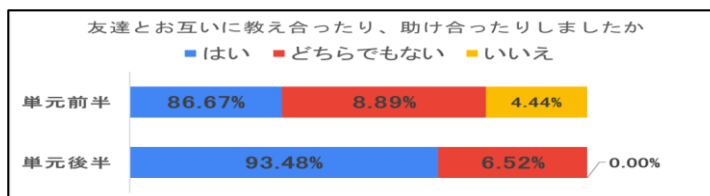
3 成果と課題

(1) 成果

- グループニングの工夫により、男女差・技能差に関係なく1つのグループとして活動する場面が増加した。「体育の学習に関する生徒アンケート」(21項目質問紙アンケート)において、「体育の学習で、体力に差がある仲間と協力できると楽しい。」と回答した生徒は学習後増加したことから、男女混合・能力混合のグループニングは生徒の学び合いに効果があったと考える。



- 授業の振り返りアンケートの結果、授業の回数を重ねるにつれて「友達とお互いに教え合ったり、助けあったりしましたか」項目について、「はい」と回答した生徒が増加し、単元後半では



「いいえ」と回答した生徒は0人となった。このことから、評価方法の工夫や課題解決の工夫を行うことは生徒の教え合いや関わり合いに効果があると考ええる。

(2) 課題

- 跳び箱運動は、自分で動いて動きを高めることから、効果的なグループニングによる学び合いを自分の動きづくりに生かしやすい。今後は、集団で動きを高める球技等においても、男女差・技能差関係なく動きづくりに取り組むことができるようなグループニングの在り方を考えていきたい。また、グループでの学び合いをさらによいものにするために、「どんな視点で考えるか。」「考えたことをどのように表現するか。(言葉、図、映像等)」、さらに工夫していく必要がある。